

## 小学校第6学年 音楽科

### ⑳日本と世界の楽器の音色を感じ取ろう ー正倉院の宝物に納められた楽器からー

#### 学習のねらい

- 雅楽で使われている楽器と正倉院に現存する楽器とのつながりを知り、伝統的な楽器や音楽に愛着をもつ。
- 音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、それぞれの曲の特徴や演奏のよさを理解し、味わって聴く。
- 多様な楽器の音色や響きを感じ取る。

#### 郷土の資源について

正倉院の宝物の中には奈良時代から受け継がれた、たくさんの楽器が現存しており、その一部は、毎年「正倉院展」で公開され、当時の楽器を身近なものとして見ることができる。それらの楽器について学ぶことを通して、伝統的な楽器や音楽に愛着をもたせたい。

宝物の一つである排簫<sup>はいしょう</sup>は、ストローなど身近な材料でレプリカを手づくりすることができる。楽器をつくる過程で、その楽器の発音原理や特徴を知り、音色や演奏の仕方についての興味・関心を高めることにつながると考える。

#### 学習指導要領上の位置付け

第5・6学年 B鑑賞(1)



▲ ストローで作った排簫

#### 学習の流れ

1. 雅楽「越天楽」を鑑賞し、雅楽で使われている楽器について理解する。

1時間  
(音楽)

2. 「越天楽」に使われている楽器が正倉院の宝物にあることを知る。宝物にあるそれぞれの楽器について調べ、楽器の音色に着目する。

1時間  
(音楽)

3. 身近にある材料で排簫のレプリカをつくり、楽器の構造や音が出る仕組みに興味をもつ。

1時間  
(図工)

4. 排簫や第2時で調べた楽器と似ている楽器が使われている諸外国の音楽を鑑賞し、それぞれの楽器の音色や音楽の特徴を感じ取る。

(本時)

1時間  
(音楽)

## 展開例（本時 4 / 4）

	学習活動	指導上の留意点（※評価規準）	備考
導入	<ul style="list-style-type: none"> <li>○前時の振り返りをする。</li> <li>・正倉院に納められている楽器の特徴や楽器の起源について確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・楽器の写真を提示しながら前時を振り返らせ、それぞれの楽器の発音原理や種類（管、弦、打）、楽器のルーツなどを確認させる。</li> </ul>	楽器の写真（掲示資料やICT機器の活用）
展開	楽器による、いろいろな国の音楽の特徴やよさを感じ取ろう。		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○前時に調べた楽器と似ている楽器が使われている諸外国の音楽を聴き、それぞれの音楽の楽器の音色の特徴や音楽の雰囲気の違いを感じ取る。</li> <li>○気付いたことや感じ取ったことを共有する。</li> </ul>	<p>【鑑賞曲の例】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・カヤグム（朝鮮半島）の演奏</li> <li>・ズルナ（トルコ）の演奏</li> <li>・ナイ（ルーマニア）の演奏 など</li> </ul> <p>・前時まで学習したことを振り返らせながら、雅楽に使われている和楽器との共通点や相違点について気付けるようにする。（視聴覚教材を用いて、比較確認させる。）</p> <p>・聴き取ったことと感じ取ったことの関わりについて考えさせる。</p> <p>・言葉で表したり、交流したりしながら、それぞれの音楽に対する感じ方や考え方を深め広げさせる。</p> <p><b>※それぞれの楽器の魅力や演奏のよさを見い出して聴いている。</b></p>	視聴覚教材 ワークシート
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>○本時の振り返りをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・それぞれの音楽が人々のくらしや文化と関わりがあり、その国の人々によって大切に伝えられてきたことに気付かせる。</li> </ul>	ワークシート

### 発展的な学習の例

- ・身近な地域の伝統的な芸能や音楽について調べ、その音楽を伝えてきた人々の存在を知り、音楽と人との関わりに気付く。

### 参考文献・Web ページ

- ・宮内庁 正倉院 HP  
<http://shosoin.kunaicho.go.jp>

